

現代短歌分類辭典

第十四卷

津端修編集

津 端 修 編 纂

現 代 短 歌 分 類 辞 典

第 十 四 卷

イ ソ ラ ベ ラ 社

現代短歌分類辞典

14

昭和四十一年四月二十日初版発行

定価四五〇円

著者兼
発行者 津 端 修

東京都文京区春日一丁目六

印刷所 岩佐印刷所

東京都中野区上高田二丁目九

発行所 イソラベラ社

電話三八七局八四二九番
振替 東京 六七三四一番

浅野川
 朝野路
 朝野出
 麻の葉
 朝野分する
 浅羽
 朝葉
 浅場
 あさはかさ
 あさはかな
 浅はかなりーき
 あさはかなれーば
 あさはかに
 あさはかの
 朝馬車
 朝畑
 麻畑（あさはた）

八 九 一 二 六 一 一 一 一 一 一 一 六 一 一 一 歌数

三	〃	〃	三	〃	〃	〃	元	〃	〃	〃	〃	六	〃	〃	〃	二七	頁数
朝晴	浅春	朝原	麻原	朝早の	朝早に	朝浜	朝羽振る	朝羽振り	朝羽ぶく	麻葉野	浅羽野	朝花たんぽぽ	朝花売	朝花	朝八時	麻畠（あさばたけ）	

五 一 二 一 一 一 三 二 一 一 一 一 一 一 六 一 五 歌数

三 〃 〃 〃 三 〃 〃 三 〃 〃 〃 〃 四 〃 〃 三 三 頁数

朝雲雀
 朝陽村
 朝陽焼せーる
 あさひやま
 朝日山
 朝日夕つ日
 朝日夕日
 朝日夕日す
 朝日和
 朝開き
 朝びらきす
 朝びらきする
 朝昼
 麻生
 麻生 (地名)
 麻布 (地名)
 朝笛

一七一一二二二四二一七一一一一一五 歌数

〃 一七 〃 〃 〃 一七 一六 一六 一七 〃 〃 一六 〃 〃 〃 一六 一五 頁数

朝帆
 浅紅
 朝風呂
 朝冬陽
 麻布やま
 麻布狸穴
 朝吹雪
 朝舟人
 朝舟
 浅舟
 麻布でら
 朝淵
 麻布台
 麻衾
 朝富士
 麻袋
 麻服

一一三一一四一一一〇一一二一一二二六二一 歌数

一七 〃 〃 一七 〃 〃 〃 一七 〃 一七 〃 〃 〃 一七 〃 〃 一七 頁数

朝鳳仙花	一	二七	朝まうで	二	二〇五
朝埃	一	〃	朝まうでしーて	二	〃
朝ほととぎす	二	〃	朝まうでする	二	二〇六
朝ぼらけ	一一	〃	朝まうでせーし	一	〃
朝濠	二	〃	朝詣びと	一	〃
朝間	四五	〃	浅間大岳	一	〃
朝熊(山の名)	一	二九	浅間大嶺	一	二〇七
浅間(山の名)	一〇	〃	浅間嵐	三	〃
一の一方	三	二二	浅間が嶽	一五	〃
一けぶり	八	〃	浅間が峰	一	二〇八
一けむり	一三	二二	浅間山層	一	二〇九
一斜面	二	二二	あさまし	二	〃
一裾	三	〃	浅ましう	三	二二
一灰	四	〃	あさましからーず	三	二二
一麓	三	二四	あさましかりーし	二	二二
浅間(温泉)	七	〃	あさましかりーし	一	〃
浅間嵐	一	二五	あさましがりーぬ	一	〃

あさましけれーど	二	歌数	二三	頁数	二
あさましき	四八		〃		二
あさましく	四二		二七	浅間岳	二
あさましけれーは	一		三三	浅間平	二
あさましごと	二		〃	朝町	二
あさましき	九		〃	朝松	一
あさましの	二		三三	朝松風	二
あさまし人	二		三三	朝松山	一
あざまーしめーなむ	一		〃	朝まつりごと	二
浅間上空	一		〃	朝窓	二六
あざまーず	一		〃	浅まなり	一
浅間裾原	一		〃	浅間嶺	七六
浅間高嶺	二		三四	浅熊嶺	一
浅間高原	三		〃	浅間根腰	一
朝まだき	一三六		〃	浅間野	二
ーなる	一		三三	浅間の宿	一
ーに			〃	浅間の嶽	四

浅間の出湯
浅間の峰
浅間の宮
朝熊の山
浅間の山
浅間の湯
浅間爆発
浅間橋
浅間一根
浅間火の山
浅間葡萄
岬まゝむ
浅間焼
浅間焼肌
浅間山
浅間山風
浅間山裾

一 一 ^七八 一 一 一 五 三 一 一 一 一 ^二七 三 一 三 一 歌数

[illegible]

一 二八 六五 二 一 一五 三 三 一七 二九 一 一 一 一 一 一 一 歌数

二六〇 二七 二七二 // 二七 二七〇 // 二六九 二六七 // // // 二六四 // // // 二六三 頁数

あざむかーるる	一	二九	あざむきー給ふ	一	三〇三
あざむかーれ	三	〃	欺きーて	五	〃
あざむかーれーける	一	〃	欺きー馴れーて	一	三〇三
欺かーれーこーし	一	〃	欺きーにーけむ	一	〃
あざむかーれーざる	一	三〇〇	欺く(終止形)	五	〃
あざむかーれーし	一	〃	同(連体形)	七	三〇四
欺かーれーたる	二	〃	浅虫(地名)	六	三〇五
あざむかーれーつつ	二	〃	浅虫のいで湯	二	〃
欺かーれーて	一	〃	浅虫の海	一	〃
あざむかーれーゐる	二	三〇二	浅虫の湯	一	三〇六
欺かーん	二	〃	嘲むらく	一	〃
あざむき(名詞)	一	〃	合計	三、二三八	
あざむき(動詞)	一	〃			
欺きー得ーし	一	〃			
欺きー得ーず	一	三〇三			
欺きー得ーたる	一	〃			
欺きーし	一	〃			

あさなゆふな―は 【名詞・助詞】 「朝な夕なは」

海山の眺めを窓に取り入れてあさな夕なはさながらの旅

太田 水穂

寒蟬ひぐらしのすでにおとろふる頃となり朝な夕なはしきりに寂し⑮

斎藤 茂吉

あさなゆふな―を 【名詞・助詞】 「朝な夕なを」

萩むらにすでにこもらふ蟲のこゑ朝な夕なを隣りて住めば

北原 白秋

あさに 【名詞】 「浅丹」

水色に浅丹を刷きし山の端の空より神のいぶききこゆる⑨

尾山 篤二郎

あさにけに 【副詞】 「朝にけに」

〔万葉集、三〕―青山の嶺の白雲朝に日に常に見れどもめづらしわが君

（湯原王）

秋風のはつかに吹けばいちはやく梅の落葉はあさにけに散る①

長塚 節

秋風の僅かに吹けば朝にけに庭の梅の樹落葉せる見ゆ

篠原 志都児

あさなゆふな―は

あさにけに

朝にけに仰ぎしやまの大武根を今日のみ見てや遠ざかりなむ

加納小郭家

あさにけに兎にやるとつみにける蒲公英の葉もかたくなりけり

壕 美代

あさにけに馬のかよへる路なれば草稚をさなくして緑あさしも

前田 夕暮

あさにけに落葉しせれば我が庭のすずろに寂し梅の木の秋①

長塚 節

あさにけにきみがくみけむ苔みづのそれさへいまは湧きいでなくに③

相馬 御風

朝にけに時雨なづさふ雑木立ここの山も染みて来にける

北原 白秋

朝にけに水道の水や凍るらむ身をいとひつつ風邪なひきそね

岩谷 莫哀

あさにけにつくべきかねにこもりたるとほきひびきをきかざるなゆめ

会津 八一

朝にけにつとめをもちていそげども目触らふものか道の櫟は

半田 良平

あさにけに野原に出でて刈る草のみじかさをいふ冬は来にけり

城山じやうやま 達朗

あさにけに春の光しくははればかすまぬかたもうへなかりけり

三条西季知

朝にけにひとの言葉をうとみつつわが言ふことのとほしくなりけり

原田 泰治

朝にけに服かけさやり落ちたりし粗壁砂を畳に掃くも

杉浦翠子

朝に日に櫓焚くなべにおのづから仏壇の扉も煤びけらしも①

森山汀川

朝にけに芽独活かなしと盛高にかけつる土を今日は掻き掘る

北原白秋

朝にけにめしたく業に我がなれて火たき上手となりにけるかも

古井宮人

朝に日に往復ゆききを乗るに電車の客われはたやすく親しみがたし①

大橋松平

朝にけにゑまひ寄り来るみどり児の面わを見れば生きたくありけり

佐々黙々

あづま路へ行くちふ車朝にけに見つつ羨しも乗る日は無しに①

与謝野寛

あまぎらすみてらのいらかあさにけにをちかたびとのかすみとやみむ

会津八一

大泉山小泉山を道のべに沢田を越えて朝に日にみつ

高田浪吉

おほかたの花の散れれば朝にけに街の青木のしるけくし見ゆ

岩谷莫哀

かどにはのいしるのしみづあさにけにくみけむちちのわかきひをおもふ 会津八一

木臼木の下に据ゑつけておけば朝にけに木の花ほたりほたりとおちぬ 前田夕暮

あさにけに

紅の凌霄花朝にけに散りて落つれど尽くとせなくに

こがくれてわがおいけらしあさにけにそらのあをきをうちあふぎつつ

事となき幼き笑ひ朝にけに起る聞きては行きて見つ我も

この四月朝よつきに日に見し山椒の木崖高ければ実もとらざりき

恋心漸く失せぬ朝にけに目ざめかなしく薔薇の虫とる

ならやまをさかりしひよりあさにけにみてらみほとけおもかげにたつ

男体の山の清水を家に引き朝にけに飲む人の羨しも

萩花のすぎは惜みかひえ鳥は小枝たちくぐ朝にけにきて⑩

はつ夏の岡の草木はあさにけに親しさまさり住みなれむとす①

日に疎うとき木かげの苔の朝にけに緑添はりゆきうち光りつも

藤豆はかたくなりつつ朝にけに葉分の風の吹きそめにけり

まごころは祈りにちかし朝にけに粗き石原き鑿りひららきつつ

窪田空穂

会津八一

窪田空穂

土屋文明

穂積忠

会津八一

半田良平

安江不空

大橋松平

窪田空穂

土田耕平

前田夕暮

前庭の紅山桜朝にけに色ふかく咲くを愛でて日を経ぬ②

中西 悟堂

わがつとめ軽からめやも朝にけに密輸防止に思ひゆきつつ

原 真弓

われながらうれしかりけり朝にけに君がこの世にませしをおもへば③

相馬 御風

あさにじ 【名詞】〔朝虹〕

朝虹は野分はげしき西の山にしばし立ちしが雲吹き消ちぬ

中村 憲吉

朝虹は尾根にあえかにかかりけり燕の群の眼路をよぎりぬ

森 永忠子

甘藷の葉をうるほすほどの雨すぎて朝虹たちぬしばらくの間

秋田 秋良

牛撫でてわれはほほゑみ桔梗抱いて人は頬ずる森の朝虹

正 富 汪 洋

海の上にまろく大きな朝虹の間に見ゆるブラジルの岡

永 田 稠

東南のくもりをおくるまたたくま最上川のうへに朝虹たてり⑩

斎藤 茂吉

あさには 【名詞】〔朝庭〕

〔万葉集、十七、長歌〕―朝庭に 出で立ち平しなら 夕庭に……

朝にけに